

授業科目名・形態	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	古川博文・石岡和志・林宏二	実務経験の有無	有	開講期	4年前期

【授業の主題】

本講は、精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに精神障害者のおかれている現状、生活の実態や生活上の困難について学習し、個別指導及び集団指導を通して精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術などを体得することを目的とする。また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

- 1) 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務について、関係書類の取り扱い方に反映できる。
- 2) 実習先の施設・機関と周辺地域の特性を理解し、施設概要に反映させることができる。
- 3) 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書を作成できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実習概要の確認
- 第3回 実習施設の概要作成①
- 第4回 実習施設の概要作成②
- 第5回 実習計画書の作成①
- 第6回 実習計画書の作成②
- 第7回 実習計画書の作成③、事前訪問の目的・内容など
- 第8回 実習日誌の書き方、カンファレンスシートの書き方①
- 第9回 実習日誌の書き方、カンファレンスシートの書き方②
- 第10回 実習日誌の書き方、カンファレンスシートの書き方③
- 第11回 関係書類の準備と扱い方、個人のプライバシー保護と守秘義務の理解
- 第12回 実習課題の確認、実習中の注意事項、緊急時の対応など
- 第13回 グループディスカッション～情報共有～①
- 第14回 グループディスカッション～情報共有～②
- 第15回 現場体験学習：ゲストスピーカーを招聘 ※ゲストスピーカーとの日程調整により回の変更があり得る

【授業実施方法】

基本的には講義と演習（個人、グループ）で行う。

【授業準備】

精神保健福祉法並びに障害者総合支援法について復習し、実習先の法的位置付けや精神障害者の置かれている現状などを理解して、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習

【教科書等】

一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会編：精神保健福祉援助実習指導・実習（第2版）、中央法規出版、2015。

【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（ワークシート、ミニレポートなど）70%、グループ発表（報告書）30%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は福祉施設でソーシャルワーカー（社会福祉士7年・精神保健福祉士6年）として、利用者、その家族、支援者等への相談業務を経験している。授業を通して社会福祉学の基本知識だけでなく、実務経験から得たソーシャルワーカーとしての知識・技術・価値を統合する能力についても高めていきたい。

【学生へのメッセージ】

実習を効果的に進められるよう、これまでの学習や生活上の経験を活かしながら積極的・主体的に取り組んでください。1週間に複数回開講するので、遅刻・欠席がないよう自己管理してください。